

京セラ株式会社

2017年3月期第3四半期 決算カンファレンスコールでの主な質疑応答内容

(2017年1月31日実施)

【ソーラーエネルギー事業】

Q：ソーラーエネルギー事業について、北米及び国内市場それぞれの事業環境見通しを教えてください。現在の調整は短期的なものか、それとも長期的に影響するのか。

A：北米市場は厳しい状況が続くものと見ている。今期の当初計画では北米市場で大きく販売を伸ばす予定だったが、市場が伸びるということもあり、夏頃から価格競争が厳しくなり、結果として北米市場向けは当初計画を下回ることとなった。少なくとも今期第4四半期、及び来期もこの状況は続くと考えている。今期はアジア向けを伸ばしているが、北米分をカバーするまでには至らないだろう。国内も北米ほどではないが価格競争は厳しく、第4四半期についてもこの状況が続くと見ている。来期については、日本市場が大きく伸びるとは見えないが、住宅用・メガソーラーともに案件はある。太陽電池にHEMS（ホーム・エネルギー・マネジメント・システム）や蓄電池を含めたシステム展開を進めることで改善できると見込んでいる。

Q：シリコン原料の長期契約について。高い価格での契約分が残っているが、今回の下方修正により減損リスクが出てくる可能性はあるか。

A：現時点では、長期契約をしているシリコン原料を使用しても減損リスクはないと考えている。

【電子デバイス関連事業】

Q：電子デバイス関連事業は第3四半期に利益が大きく改善しているが、利益改善の背景と、第4四半期に向けて利益改善の効果の持続性を教えてください。

A：第3四半期は部品需要が盛り上がる時期であり、高シェアのTCXO等の水晶関連製品を中心に伸びた。また、コネクタも第3四半期は第2四半期に比べ伸びた。これら部品の第4四半期の需要は季節的な要因で第3四半期に比べ若干減少する見通しだが、伸びる製品もある。例えば車載用のディスプレイについては客先から多くの注文を頂いている。

Q：TCXOの需要が好調な背景は何か。使われているのはスマートフォンか。

A：スマートフォン向けが中心。

Q：中国スマートフォンのサプライチェーンの調整リスクは感じているか。

A：調整感はあまりない。中国スマートフォンメーカー全体として調整があったとしても、当社はシェアを高めていくことで売上を伸ばしていく。

【産業機械市場向け部品】

Q：産業市場向けの半導体製造装置用セラミック部品や工具等、景気感応度の高い製品には回復感があると思うが、京セラの状況はどうか。

A：半導体製造装置用部品はかなり引き合いがあり、大きく伸びている。12月頃から製造装置用の需要は急速に上がってきている。1月も数量や納期について多くの要望を頂いている状況。工具については為替のマイナス影響があり、また、昨年の夏以降は中国での在庫調整があったが、この調整も終わり第3四半期から上がってきた。第4四半期はさらに上がる見通し。

以上